

No	事業番号	事業名	担当課	内容	回答	回答課
4章						
1	1-1 (1) ①	子どもの権利に関する条例の制定の検討	子育て支援課	一昨年度に子どもの権利に関する条例の制定についての検討と提言を行ったが、その後どのような見直しとなっているのか。	平成26年度末に八千代市子ども人権ネットワークより、「子どもの権利に関する条例制定の検討結果報告書」が市長へ提出されました。子どもの救済制度については、実績報告のとおり、現在ある相談機関等を活用し、子どもの権利を守るための仕組みづくりについて検討しております。また、条例の制定につきましては、子育て支援課で引き続き検討してまいります。	子育て支援課
2	1-2 (1) ③	子どもと地域住民の参画の推進	公園緑地課	未実施となっておりますが、公園緑地課では、どんなことを実施予定されていて、また、どのような原因で実施されなかったのでしょうか。	都市公園は利用対象者に制限がなく、すべての利用者が平等に公園を利用していただきたいことから、子どもや高齢者に特化した事業が困難であるため未実施といたしました。公園緑地課としては、公園の利用に関しては一定の制限(ゲートボールやグランドゴルフ等に使用する際の貸出し許可に関しては平日の午前のみとしておりゴールデンウィークやお盆、年末年始等は貸出しを実施しております。)を設け子どもたちが自由に遊ぶことのできる環境を提供しております。	公園緑地課
3	1-2 (1) ⑥	子どもの意見を取り入れた事業等の推進	生涯学習振興課	27年度に実施された内容について羅列されていますが、この計画においては「子どもの意見を取り入れる」ということが重要なので、内容の羅列ではなく、各内容がどのように子どもの意見を取り入れて決定されたのかの評価の点になるかと思えます。	事業内容という事で実施した事業を記載いたしました。今回頂きましたご意見を参考とさせていただきます、平成28年度評価票に反映させたいと思えます。記載のとおり、子どもに関する事業につきましては多数ありますが、事業終了時に満足度等のアンケートを子どもに実施し、次年度事業を計画する際に参考としております。	生涯学習振興課
4	1-3 (1) ①	八千代市要保後児童対策地域協議会の機能強化	子ども福祉課(子ども相談センター)	・機能強化ということであるが、以前の要保護児童対策地域協議会と変わった点はどの様なものか。また、現在の子ども相談センターの機能はニーズへの対応や発生予防と再発防止としての機能が十分な状況であるか。 ・標題の事業評価として、実際の相談件数や発生件数はどの様なものなのか。虐待の発生件数は減少しているのか。	・要保護児童対策地域協議会の通常の取り組みの他、①「居住実態が把握できない児童」への対応のため、本協議会構成機関へ就学事務担当の学務課を追加②実務者会議にて発達障害をテーマに支援体制の向上③児童虐待の発生予防の一環として「子どもショートステイ事業」を平成27年10月から開始④相談機能の強化のため相談員1名を増員等、機能強化を図りました。 ・本市の児童虐待の相談件数は、全国同様に年々増加しています。(平成27年度新規362件、継続197件、延べ対応件数15,008件)平成28年度の児童福祉法等の一部改正を踏まえ、今後も本協議会の関係機関との連携のもと、児童虐待の発生予防から自立支援までの一連の対策に努めます。	子ども福祉課(子ども相談センター)
5	1-4 (2) ①	児童発達支援センター運営事業の充実	障害者支援課(児童発達支援センター)	・幼稚園、保育園、認定こども園等における発達障害が疑われる園児の数は増加しており、クラスに1割近くいることもある。八千代市の「ことばと発達の相談室」は、診断以前の子どもと保護者そして現場保育者にとっても身近な窓口である。早期発見から、卒園後の就学、小学校以降までの切れ目のない支援に繋げていくために、「ことばと発達の相談室」の機能強化が早急に必要と思われる。現在は、園で通所を勧めてもなかなか予約が取れない状況であり、また保育施設への巡回指導も保育所と認定こども園に限られており、私立幼稚園までではできない状況とのことであるが、スタッフ増員や通所しやすい施設、環境の整備を強く希望する。 ・現在の、年間の相談件数およびスタッフ、施設の状況はどの様なものか。 ・児童発達支援センターとの統合が第4次総合計画後期計画に位置付けられているとのことだが、それはいつ頃、どのような計画か。また、そのメリット、デメリットは何か。	・幼稚園や保育園等集団生活で適応することができるよう、適切かつ効果的な支援が行えるよう、今年度より保育園等訪問支援事業を開始しております。また、施設・職員の充実にしまして、児童発達支援センター整備事業を第4次総合計画後期計画に位置付け検討を進めております。 ・相談にしましては、平成27年度延べ2,582人に利用していただいており、個別相談のスタッフとしましては、ケースワーカー2名、心理士2名、言語聴覚士3名、理学療法士1名で実施しております。現在言語聴覚士の退職により欠員が1名あり補充に努めております。 ・老朽化・手狭になっている施設の建替えを行い、同一施設内で相談から療育への一貫した支援の充実を図るため、平成33年度の開所に向け検討を進めております。	障害者支援課(児童発達支援センター)
6	1-4 (2) ⑦	保護者同士の交流や学習の支援	障害者支援課(児童発達支援センター)	「療育を理解したり情報交換することで子育て家庭への充実を図る」とあるが、具体的にどの様な事をしたのか？知的障害、身体障害、最も多数であると思われる発達障害等、障害によっていろいろな問題や親の悩みがあると思うので、それぞれに細やかな対応が必要と思われます。親同士の情報交換の場やネットワークを作ったり、市としてそれぞれの家庭を支援出来ているのでしょうか？	「親の会」との交流会や卒園児の保護者の話を聞く会を設け、さらに保護者の懇親会開催に際しセンターの場を提供する等支援を行い、保護者同士の情報交換の機会を提供するように努めております。また療育内容についての理解を深めるために、週1回の母子通園や新入園児保護者の学習会・年2回の保護者向けの講演会を行っております。保護者との連絡も面談や連絡帳を通じて密に行い、家庭への支援に努めております。	障害者支援課(児童発達支援センター)

No	事業番号	事業名	担当課	内容	回答	回答課
7	2-1 (1) ①	保育園等の適切な配置	子育て支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模保育所等の整備によって定員は増加しているが、実際の待機児童の状況はどうか。当初計画との差異はないのか。</li> <li>・今後の整備予定はどの様になっているのか。小規模保育所のバックアップ施設は確保できているのか。3歳以上になったときの2号認定児の受け入れ先をどのようにする予定か。</li> </ul>	<p>第5章の確保方策では2,272人の確保としておりましたが、2,410人の確保ができました。</p> <p>平成28年4月1日時点の待機児童数は53人となっており、保育の必要量が増加しております。</p> <p>なお、小規模保育所の卒園後の児童の受け皿については、事業者が連携施設と協定を交わすことを義務づけており、現在7施設中6施設が協定書を取り交わし、バックアップ施設の確保ができております。</p> <p>残り1施設については、連携について協議を進めてまいりたいと考えております。</p>	子育て支援課
8	2-1 (4) ①	認定こども園の設置に関する支援	子育て支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の認定こども園化を進めることによって、2号認定児の受け皿ができ、小規模保育所のバックアップ施設としての機能を持つことができる。また、幼稚園では2歳児保育を実施している園も多くあり、3号認定の2歳児だけでも幼稚園から移行した認定こども園で受け入れをすることで、0～2歳児の定員を増やすことができる。</li> <li>・市の待機児童対策の一つとして、また質の高い幼児教育・保育・子育て支援を提供する事業の一つとして、幼稚園の認定こども園への移行を支援、推進することを提案したい。</li> </ul>	<p>引き続き、幼稚園等に情報提供等を行い、スムーズな移行が実施できるよう努めます。</p>	子育て支援課
9	2-2 (1) ②	利用者支援事業の実施【新規】	子育て支援課	<p>実施要項についての検討を実施とのことだが、今後の計画は？</p>	<p>今年度内に実施要領を策定し、来年度からの事業開始を予定しております。</p>	子育て支援課
10	2-3 (1) ②	幼稚園・保育園等、小学校との連携	子育て支援課(幼稚園) 子育て支援課(保育園) 指導課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要録の送付は幼稚園・保育園・認定こども園に義務付けられており、十分な連携とは言えない。</li> <li>・アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムは「接続期のカリキュラム」として重要な問題として注目され、様々な市町村において策定を進めているところである。</li> <li>・八千代市においても幼児教育振興アクションプランにおいて、幼保小の情報交換会が開催されたこともあった。職場体験や小学校訪問等の各現場同士の単発的な交流ではなく、互いの指導課程、教育・保育課程に位置付けられるような「接続期カリキュラム」の策定について、幼・保・認こおよび小学校・教育委員会で検討を要望する。</li> </ul>	<p>要録の送付も含め、引き続き関係機関とともに幼稚園・保育園等、小学校との円滑な連携に向けて努めてまいります。</p>	子育て支援課
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・要録の送付の他に、一部の小学校では就学前に幼稚園・保育園・認定こども園の訪問を行い、子どもの情報を共有しております。より連携が図れるよう、今後も小学校に助言を行っていきます。</li> <li>・スタートプログラム等につきましては、文科省より資料の送付などがあり、小学校にはその都度周知しております。カリキュラム等の策定につきましては、関係課と協議しながら検討していきます。</li> </ul>	指導課	
11	2-3 (1) ③	保健・福祉・教育機関の連携	子育て支援課 子育て支援課 (地域子育て支援センター) 母子保健課 生涯学習振興課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度についての評価がAとされているが、認定こども園では、1号教育認定児と2・3号保育認定児の両者を受け入れているが、新制度初年度ということもあり、両者の手続きや市の扱い、補助金、担当部署の違いに戸惑うことが非常に多かった。今年度は、元気こども課の廃止によって子育て支援課として一つとなっており、スムーズな対応を期待している。</li> <li>・放課後子ども教室や学童保育、教育委員会と保育の現場サイドの連携も希望する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度より、子育て支援課の幼稚園・保育園班に対応してまいりますので、スムーズな対応ができるよう努めてまいります。</li> <li>・同一開催校の放課後子ども教室と学童保育事業の連携につきましては、一体的な活動を進めているところであります。また、他の放課後子ども教室と学童の連携については、今後検討してまいります。</li> </ul>	子育て支援課

No	事業番号	事業名	担当課	内容	回答	回答課
12	2-4 (1) ①	学童保育所の拡充	子育て支援課	市内のエリアによっては、学童保育の定員が不足している為学童保育に預けられない(特に3年生以上)という声が、聞こえています。定員の見直しなどが必要な地区もあるようですが…	学童保育事業において、定員の見直しや拡充につきまして、夏休み前までに2学区において定員拡大を行いました。今後も関係機関と連携を図りながら検討してまいります。	子育て支援課
13				学童期の放課後支援では、低学年の入所希望が多く、3年生が入所継続できない状況があるとききます。高学年の入所継続については下校時間が遅くなることから、検討が必要ではないかと考えます。	学童保育所の入所に関しまして、学年の低い子は審査基準表の得点が高くなっており、得点の高い方から優先的に入所となりますことをご理解いただきたいと思います。	
14				・定員拡大については評価するが、現在の待機児の状況や今後の拡充計画は？ ・学童の一時預かりについてはどの様に考えているか。幼稚園の預かり保育の活用の検討はいかがか？	待機児童の状況により、今後も必要な地区の定員拡大に向けて検討してまいります。また、幼稚園等の活用も含めて、検討してまいります。	
15				八千代市の民間運営学童に対する委託費の積算がかなり厳しい状況であり、現状維持であるのならば事業の廃止を検討する必要がある。学童保育所の拡充を行いたいのであればそれに合った委託費を計上するべきである。	学童保育事業の委託に際しては、必要と考えられる委託費を積算し、事業者と委託契約を結んでおります。委託費や仕様の見直しを検討する必要があると考え、既存の委託契約の内容も含めて、近隣市の状況等も調査し、精査を行ってまいります。	
16	2-4 (2) ①	放課後子ども教室の拡充	子育て支援課	各地域に1校とのことだが、これでニーズに答えているのか。学校間の格差はないのか。	放課後子ども教室においては、小学校における余裕教室を活用して実施しておりますことから、教育委員会と協議のうえ、学校の状況を踏まえ、順次実施しているところです。	子育て支援課
17	3-3 (1) ⑥	実費徴収に係る補足給付を行う事業の検討	子育て支援課	検討状況、結果は？	実費徴収に係る補足給付を行う事業については、近隣市の実施状況等について引き続き調査等を進めてまいります。	子育て支援課
18	4-1 (4) ⑤	児童館の設置の検討	子育て支援課	市民のニーズをとらえるために行った自由記述のアンケートでも、児童館の設置は多くの市民の希望でした。放課後や長期休業中の居場所として、学童や放課後教室の拡充は進んでいて、一歩前進したと思いますが、児童館の設置は検討を重ねているだけで、まだ何も進んでいることが目に見えてきません。今回の実施状況でも「必要性について研究・検討を行った」という文章。現在のところ、どのような中間結果がでているのでしょうか。27年度は無理だったのでしたら、ぜひ今後前進させて下さい。	児童館設置に関しましての市民ニーズについては認識しておりますが、学童保育所の待機児童解消や、放課後の居場所づくりとしての放課後子ども教室の拡充などを、喫緊の課題として取り組みたいと考えております。また、児童館につきましては、今後も引き続き設置等について検討してまいります。	子育て支援課
19				児童館の設置は学童保育所に通っている子どももいない子どもも共に過ごせる場所です。小学生・中学生が主体的に過ごせて放課後の子どもの居場所になると考えます。引き続き検討をお願いします。		
20				検討状況、結果は？		
21				研究・検討を行った結果どのような方向に向かっているのでしょうか		

No	事業番号	事業名	担当課	内容	回答	回答課
22	5-2 (1) ①	ワーク・ライフ・バランスの意識啓発の促進	子育て支援課 男女共同参画課 商工課	事業所の実態把握や実施状況は？	子育てに関するサイトによる情報提供によって啓発を行っております。	子育て支援課
23					平成25年に「男女共同参画社会形成に向けての事業所調査」において、仕事と家庭の両立支援の状況等に関する調査を実施しました。対象は八千代商工会議所会員の事業所(1,836件)で、概ね、5年に一度実施しております。	男女共同参画課
24					市内事業所での実態把握については個別に把握することは困難であることから行っておりません。各種媒体による意識啓発に注力しております。	商工課
25	5-2 (1) ③	一般事業主行動計画の推進	子育て支援課 商工課	事業所の実態把握や実施状況は？	ポスターの掲示によって啓発を行っております。	子育て支援課
26					常時雇用する従業員が101人以上の企業は、この行動計画を策定し、県労働局に届け出ることが義務となっていることから達成率はほぼ100%となっております。 常時雇用する従業員が100人以下の企業は、努力義務となっていることから達成率はそれほど多くないようですが、実態把握については個別に把握することは困難であることから行っておりません。各種媒体による意識啓発に注力しております。(千葉労働局雇用環境・均等室より聞き取り)	商工課
27	7-1 (2) ①	生物多様性保全事業(谷津・里山・ほたるの里の保全)の推進	環境保全課	里山楽校を卒業したボランティアの方々の尽力で里山が整備されています。素晴らしい八千代の里山・自然を乳幼児、学童時期の子ども達が体験できる機会を多く計画されるといいのではないかとおもいます。	現在ほたるの里等において、乳幼児や学童時期の子ども達を対象とした体験するイベント(ザリガニ釣り大会や夜の生き物観察会等)を開催しております。今後もこのような子どもたちが里山を体験できるイベントを実施していきます。	環境保全課
28	7-2 (1) ③	交通安全施設整備の推進	土木維持課	市内、小中学校の登下校時に危険な地点は、まだまだあります。子ども達が、交通事故にあわないように、さらに道路環境を整えて頂きたいです。	市道における交通安全施設の整備については、関連機関等と連携し、道路環境の安全に努めてまいります。	土木維持課
29	7-2 (1) ③	交通安全施設整備の推進	土木維持課	消えかかった横断歩道の補修、学校・保育施設近隣の信号機設置、歩道の確保等、要望しても予算がないとのことで、なかなか実現しない。管轄も警察だったり市の道路課であったりと、難しい。子どもの安全確保のために、現状の調査・把握および早期対応を希望する。	交通管理者等の関係機関と連携し、安全確保に努めてまいります。	土木維持課
5章						
30	11	利用者支援事業	子育て支援課	利用者支援事業とはどんなことでしょうか	子育て中の親子の身近な場所で、教育・保育施設や地域子育て支援事業を円滑に利用できるよう、専門の職員が、必要な情報提供や相談・助言等を行うとともに、関係機関との連絡調整等を実施する事業です。	子育て支援課

以下のご意見につきましては、事業に直接関連しませんので、個別に市の考え方をお示しませんが、今後の事業計画を推進するにあたっての参考とさせていただきます。

その他のご意見等(事業に関する意見以外)	
No	ご意見の概要
1	待機児童がいるにもかかわらず、少子化率が県平均、全国平均よりも高いからこそ手を打つべきではないか。 待機児童数を前年比で減少させている自治体の場合の様に、計画を示すだけでなく、必要十分な予算を組み、子ども施策に反映させることが必要である。「財政が厳しいから前年比〇〇%削減の予算を…」で本当によいのか。 今、子どもにお金をかけないでいつかけるのか。残念ながら八千代市からは子ども施策に対する本気度が感じられない。
2	公立保育園における保育士の定年退職者補充、新卒保育士の採用など計画通りに進んでいるのか疑問である。 近隣他市は積極的な採用活動(奨学金の給付、市単独補助金の増額、広報活動等)を行っているが、八千代市はどのような施策を実施しているのか。担当課だけでなく市役所全体での取り組みを伺いたい。
3	新制度になり時間外保育を運営相当分の私立保育園に対する補助金が削減されました。近隣他市では市単独補助金の削減は行われていません。八千代市は子どもの保育環境をどのようにしたいのか疑問に感じます。
4	評価Dの未実施については理由もあるほうがよいのでは
5	全体的に評価Aが多く項目の事業を達成しているとおもわれますが、市内で子育てをしている自分には支援が十分だとはあまり感じていませんし、こんなことをやってるんだと知らなかったこともいくつかありました。現役の子育て世代の人たちは待機児童の解消や学童、一時預かり先、公園の充実などを優先して取り組んでほしいと期待していると思います。